

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育課程論(Education Program)		授業コード	K005951
担当教員名	山岸 治男		科目ナンバリングコード	K20106
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	教職必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	教職を志望しており、通常のコミュニケーションが可能なこと。教職に期待される役割を習得する意欲を持つこと。			
受講心得	教育・教職・人の発達・人格形成など、ひとの成長や発達、それに伴う集団や社会の形成などに広く興味や関心を持つよう、日常の出来事・ニュース・人間や文化に関する新聞記事などに接する習慣をつけてください。教職に就くことを念頭において下さい。			
教科書	学習指導要領、『新しい時代の教職課程』			
参考文献及び指定図書	講義中に提示します。			
関連科目	免許取得に必要な全科目			

授業の目的	学校は各教科や特別活動などを媒介して、児童・生徒が学習を深化拡大し人間的発達を遂げるための教育機関です。また、教師はそれらの学習を指導する学校教育の担い手です。この授業は、こうした専門的職業活動を行う場合の指針としての教育課程(教育の総合的手順)について理解し、教育課程の編成ができる教師力をつけることを目的に行うものです。
授業の概要	さきの目的を達成するために、教育課程の意義や目的、教職実践における教育課程の実際などに関し、教育課程の歴史や近時の動向などを素材に検討し、指導の実際における教育課程の重要性について理解します。授業計画に即して講義を聴き、ノートし、調べ、教育課程を編成し、意見交換し、意見発表するなど、多様な活動を組み合わせます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：教育課程とは何か 教育がどんな効果を上げるかは、教師の教育技術によるだけでなく、教育全体の組み立てなど教育課程による分も大きいことを理解します。	講義時に資料を配布することがあります。教科書は必ず持参してください。図書館を利用した予習を課すことがあります。また、意見を求められた場合は声を出して要点が解るように発言してください。すぐ答えられない場合は「待ってください」「これについては分かりません」などと応答してください。受講生同士が相手の意見に敬意をもってよく聴くよう努めてください。
第2週：近代日本における教育課程の歩み 学制発布(1872/明治5)以後、戦前期までの約75年間の教育課程の歩みを総合的に振り返ります。	
第3週：二十世紀後半日本の教育課程 二十世紀後半の教育課程を振り返り、経験主義、系統性、現代化、人間性重視、新学力観、生きる力…などの議論の背景を探ります	

第4週：二十一世紀における教育課程の動向		
近時の教育課程の動向を総合的に検討し、学力低下、子どもの貧困、確かな学力…など、厳しい環境下における教育課程の展望を探ります。		
第5週：教育課程の思想と構造		
学年制、学期制、授業内容と時数の設定…など、教育課程にはどんな思想がどのように具体化されてきたかについて検討します。		
第6週：教育課程の編成		
国は教育課程編成はどのように行うのか、それを基準に行う学校における教育課程の編成はどのように実施するのか理解します。		
第7週：教育課程編成の試み		
学校が行う教育課程の編成について、グループで話し合いながら試行します。困難だった点や、工夫した点について全体で討議します。		
第8週：教育課程編成と学習指導要領		
学校の教育課程編成時に参照する『学習指導要領』の活用方法を検討します。実際に演習形式で相互に報告しあいます。		
第9週：社会における教育課程		
教育課程には保護者や住民、企業などの社会から寄せられる期待や評価・批判などが反映されます。その反映の仕組みを検討します。		
第10週：教育課程の評価		
教育課程は教育効果と併せて評価されますが、どんな視点で、どのように評価し、教育課程にどう生かすことが出来るのか検討します。		
第11週：教育課程の今日的課題—1「生命の尊重」		
いじめや引きこもりが頻発する今日、生命と生きる活動は重要な課題です。教育課程にこの課題をどのように反映するか、検討します。		
第12週：教育課程の今日的課題—2「市民・公民の自覚」		
個民化、無縁化…が進行する今日、自由/責任/博愛の精神を持つ市民、社会構成者としての公民などの育成と教育課程の関係を検討します。		
第13週：教育課程の今日的課題—3「自己と環境」		
人が私的な快適生活のみに走れば地球温暖化、原発問題など環境問題を後世に残します。それらの解決を教育課程とあわせて検討します。		
第14週：諸外国の教育課程—英米の場合		
アメリカの教育課程、イギリスの教育課程について理解し、日本の教育課程と比較検討します。		
第15週：諸外国の教育課程—中国と韓国の場合		
中国の教育課程、韓国の教育課程について理解し、日本の教育課程と比較検討します。		
第16週：テスト		
15回分の講義内容について試験を行います。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考	授業の形式 受講生数に応じて、講義、演習、検索、記録・記述・分析、報告、模擬授業などを組み合わせます。 授業の形式は、受講生数に応じて組み合わせが異なります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	受講生が、ノートを取りながら聴講する活動、演習に参加する態度、調査課題について諸資料を検索する活動、記述など文章化する活動、報告、模擬授業などを通して、それぞれの能力を受講前と比べて向上したと実感できること。
【知識・理解】	知識や理解について毎時簡単な質問をする際に応えられるよう復習すること。
【技能・表現・コミュニケーション】	発問への応答、感想記録などにきちんと対応すること。
【思考・判断・創造】	聴く、話す、読む、書く、指導案を作成するなどの全活動に良習慣を習得するよう努力すること。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点	10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	20点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	・講義内容から、選択・空欄記入などの形式のほか論述形式からも出題し、講義内容を理解しているか否かを確認する内容を課します。ノートや授業案等、日々の学習活動について評価します。
発表・その他(無形成果)	・参加態度は、積極性や意欲、受講生仲間への配慮や責任感、誠実さなど、教師として求められる資質について評価します。